

昭和26年(1951年)

戦後初の修学旅行

終戦後、待ちに待った修学旅行は関東方面に決定し、この後の修学旅行に大きな影響を与えました。

修学旅行の復活

戦後初めての修学旅行は十月九日から十四日の六日間でした。箱根、江ノ島、鎌倉、国会議事堂など、関東での修学旅行となりました。当時は、修学旅行に行くのは三年生で、二年生から準備を始めました。また現在とは違い、生徒が旅行委員会を作って企画する手作りの旅行でした。次の文章は、修学旅行の復活を知らせる「益高新聞」の記事です。

三年修学旅行予定決まる

宿願の修学旅行は、去年の三年の準備が遅かった為中止された失敗に鑑み、二年の秋から旅行委員会を結成、多数の賛同を得て、旅行積立金を始める等、強力に準備を進めた結果、

家庭に一度に大なる負担をかけることを懸念されていた学校側の許可を得、また一学期末の父兄会でも多数の支持を得て本定まりとなった訳である。そして三年全体の圧倒的多数をもって行き先は関東となり、係の長尾先生をはじめ諸先生のご努力で、着々と具体化し、関係方面と折衝手続きも大体済み、ここに主なる日程等を発表できる段取りとなった。言う迄もなく修学旅行は、平素の学習の実際の裏付けとしてのものであり、また見聞を広くして地方的な物の考え方を改め、又高校生活の忘れ難い思い出となるものであるから、単なる物見遊山とは全然性質を異にするものである。我々の記念すべき

修学旅行を、かかる目的に合致させるよう、全生徒及び父兄のご協力を求めたい。

次に日程の概要を記せば、十月九日午後六時二十一分萩原発、東海道線を夜行で、十日早朝熱海下車、貸切バスで箱根回り、芦ノ湖を遊覧船で渡り、強羅に至る。途中、箱根関所跡や早雲山などの史跡に古人の魂に触れ、午後は小田原より藤沢を経て、江ノ島、鎌倉を見学、長谷大仏を近代的審美眼で再検討し、建長寺では運慶快慶作の仁王像、鶴岡八幡宮に至って江ノ島で一泊。

十一日より東京に入り、貸切り巡回バスで市内各所を見学し東京に一泊。東京では科学博物館、国会議事堂、新聞社、赤坂離宮、国会図書館、植物園、中央气象台、歌舞伎座、宮城、東大などの見学が予定されている。

十二日早朝上野発国鉄「日光号」にて日光へ。東照宮の華麗な社殿をカメラに収め、大谷川沿いに紅葉を求めて華厳の滝へ、時間が許せば中禅寺湖まで足を延ばす等々豊富なプランで同夜東京帰着。夜行列車にて帰校の途につく予定。萩原着は十四日午後四時十三分となっている。これは県教育委員会の修学旅行規定内でできるだけ多くを、極めて多忙な日程ではあるが、やむを得ずこのようになったのである。なお詳細は旅行委員会で旅行のしおりの如きものを出して、追って説明するつもりである。

(旅行委員会)
益高新聞復刊第一号より

修学旅行の変遷

- 昭和27年 秋から春に移行
- 昭和32年 行き先が関東と関西に分かれて実施
- 昭和38年 3年生から2年生に実施学年が変更
- 昭和40年 普通科商業科の2班
中国・四国方面
- 昭和46年 3泊4日の行程に

